

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02659

研究課題名（和文）ネパールの演劇文化の研究 地方文化の創生

研究課題名（英文）Study of Nepalese theater tradition. Creation of regional culture.

研究代表者

北田 信（Kitada, Makoto）

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：60508513

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：ネパール・カトマンドゥ盆地に栄えた中世マッラ王朝の宮廷演劇を、演劇台本写本に基づいて文献学的に研究した。また、今日まで受け継がれているネパールの伝統芸能を現地調査し、文献と比較した。このことにより、ネパールの民族的アイデンティティが、初期の演劇作品群に、どのように打ち出され、明確化されていったかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日のネパールの国民文化を代表する伝統芸能の多くは、カトマンドゥ盆地の先住民ネワール族（チベット・ビルマ語系）が興した中世マッラ王朝期の宮廷演劇や儀礼を起源としている。マッラ宮廷の演劇文化は、インド東部（ベンガル及びミティラー）の宮廷文化の影響を受けながら発達した。中世ネパールの初期戯曲群を研究することにより、インド・ネパールの芸能文化の特色とその起源を究明し、またそれを基盤にして、ネワール独自の民族文化がどのように発現したかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：I studied the court theater of the medieval Malla dynasty, which flourished in the Kathmandu Valley in Nepal, philologically based on theatrical manuscripts. I also conducted field surveys of Nepalese traditional performing arts that have been passed down to the present day and compared them with literature. This revealed how Nepal's ethnic identity was articulated and clarified in early theatrical works.

研究分野：南アジア諸言語の文学

キーワード：ネパールの演劇写本 民族文化 カトマンドゥ盆地 チベット・ビルマ語族 古典ネワール語 中世マッラ王朝 ミティラー語文学 ベンガル語文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

ネパール・カトマンドゥ盆地の先住民で、都市文明を築いたネワール族は、中世マッラ王朝(14 - 18世紀)を興し、インド古典文化の強い影響を受けつつも、独自の地方文化を華開かせた。建築・彫刻・絵画等多岐に亘る文化的繁栄のうち、本研究では文芸および、文芸と不可分の関係にある芸能を扱った。

ネパール(ネワール)仏教の密教儀礼で歌われる儀礼歌チャチャー(Cacā)の中には、古ベンガル語・古ミティラー語など新期インド・アーリア語東部方言群の古い歌詞が多数含まれているが、本研究報告者(北田信)は、2009年以来これらを研究するうちに、ネワール族が、外来文化つまりインド・アーリア語の文芸・芸能を借用し模倣するだけでなく、それを材料にして、ネワール独自の文芸・芸能スタイルを生み出した、ということに関心を持った。ネワール文化創生の大まかな流れは次のようである。

マッラ王朝においては、まず15・16世紀に外来言語ベンガル語(新期インド・アーリア語系)を用いて戯曲が著され、ついで17世紀初めから外来言語ミティラー語(新期インド・アーリア語系)を用いて、さらに17世紀後半には母語ネワール語(チベット・ビルマ語系)を用いて戯曲の創作が始まる。この際、文芸語が切り替わるごとに、文化的中心(インドのベンガル地方及びミティラー地方)とは異なったネワール族独自のアイデンティティが、次第に明確に打ち出されていった。

このような流れを踏まえた上で、報告者はまず、ベンガル語及びミティラー語で書かれた初期戯曲群を研究した(2013 - 2016年)。次に、それを踏まえ、ネワール族の著者達が母語ネワール語で戯曲を書き始める17世紀後半に関心を抱いた。或る民族が、初めて母語を用いて文芸作品を著す、という出来事において、何が起きているのか、その現象の本質は何か、という問いを立てた。

上記の流れは、時代・地域は異なるが、日本において文芸が先ず外来言語・漢語を用いて行われ、それに刺激されて、遅れて日本語による文芸(古事記、日本書紀、万葉集)が書かれ始める過程に比することができる。ネパールや日本のような、それぞれ大文化圏周縁に位置し、もともと無文字民族であったものが、自らの母語を文字で書記し、文芸を著わし始める、という現象において、一体、何が起きているだろうか。

2. 研究の目的

インド文化圏の周縁に位置するネパール・カトマンドゥ盆地の先住民ネワール族が創造した地方文化の独自性とその形成過程を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

マッラ王朝の宮廷では、演劇・舞踊が盛んに催され、自らの威信を対内的(国内)かつ対外的(国際)に宣伝する手段として利用された。言い換えれば、演劇・舞踊が、ネワール族の民族アイデンティティを表出する手段となっていた。そこで、マッラ王朝期の演劇・舞踊の出現の様子や発展の様子を観ることにより、民族アイデンティティが形成され明確化される過程を、ある程度、たどることができるのではないかと考えた。幸い、マッラ王朝期には多くの戯曲が著され、多くの写本が伝わっている。時代を追って、戯曲群のテキストを調べ、その内容や文体を分析することにより、民族意識の生成過程を測ることができるのではないかと。各テキストの中で、民族意識がどの様に表出しているか? 他方、各テキストの著者の個性は、どのように発現しているか? さらに、テキストにおいて、集団と個人が、どのように交差するか? という三つの問いを立てた。

上記のとおり、マッラ王朝宮廷演劇は、15世紀からマッラ王朝が滅亡する18世紀まで、発展し続け、さらにそれを受け継ぐ芸能伝統は今日のカトマンドゥ盆地でも絶えずに生き続けている。民族意識の発現、という観点から見て、この長い発達過程の中で、とりわけ重要な出来事の一つは、17世紀後半に母語ネワール語による戯曲創作が始まったことである。17世紀後半に始まったネワール語劇群の代表的な著者として、カトマンドゥ盆地内の主要都市のひとつバクタプルを治めた文芸王ジャガトプラカーシャ・マッラ Jagatprakāśa Malla(西暦1643即位、1672没)が知られている。ジャガトプラカーシャ・マッラ王(以下JPMと略す)は、現存する最初のネワール語劇のひとつ『怪盗ムーラーデーヴァと相棒シャシデーヴァ』を著した。それまでの戯曲は、上記のとおり、ベンガル語とミティラー語で書かれており、JPM王もまた、ミティラー語による戯曲を幾つか書いているが、それと並んで、母語ネワール語を用いて上記の戯曲『怪盗ムーラーデーヴァ...』を著したほか、500余のネワール語歌詞を収める歌詞集を残した。

本研究では、主な研究対象としてJPM王の著作群を扱った。特に、500余歌のネワール語歌詞集に焦点を置いた。ネワール語戯曲『怪盗ムーラーデーヴァ...』については、既にドイツの研究者 Horst Brinkhaus の校訂テキスト・翻訳・分析が存在している [Brinkhaus 1987]からである。

本研究の成果として、古典ネワール語の権威 Kashinath Tamot 博士の協力のもと、500余のネ

ワール語歌詞のうち、これまで 486 個の歌詞を解説した。詳細は次章に述べる。

4. 研究成果

(1)

カトマンドゥ盆地内の都市国家バクタブルの王ジャガトプラカーシャ・マツラ (JPM) は、母語ネワール語 (チベット・ビルマ語系) を用いて五百を超える歌詞を作った。また、彼の著した戯曲『怪盗ムーラデーヴァと相棒シャシデーヴァ』は、インド古典説話集『屍鬼二十五話』に含まれる盗賊伝説を翻案した愉快なドタバタ喜劇であるが、同時に古典ネワール語で書かれた最初期の戯曲として重要視されている。17 世紀後半、この作品を幕切りとして、カトマンドゥ盆地内のネワール主要三王国 (カンティプル、パタン、バクタブル) では、互いに競い合うようにして、母語ネワール語による戯曲群が盛んに作られ始める。それ以前の戯曲群は、外来のベンガル語・ミティラー語 (新期インド・アーリア語) によって著されていたから、母語ネワール語を用いた劇作の隆盛は、この時期にネワール人の言語・文化的アイデンティティが明確に打ち出され始めたことを意味する。この時代、宮廷における戯曲の上演は、マツラ王家の権威を対外的・対内的に知らせ、市民の帰属意識を高める為の重要なイベントであった。

しかし Horst Brinkhaus による解説 [Brinkhaus 1987, pp. 12-16] を読むと、JPM 王が母語ネワール語で文芸活動を始める直接の動機となったのは、彼自身の個人的な悲嘆だったように思われる。JPM の宮廷にはチャンドラシェーカラ Candraśekhara (以下 CS と略す) という優れた廷臣がおり、JPM はこの人に対し並々ならぬ親愛を抱いていた。ところが CS は 1662 年に没してしまい、JPM 王はそれ以降、生涯その悲しみから逃れることがなかった。JPM 王は、自身の著作群の中で、繰り返し友の死を悼んでいる。また、筆名として、自らの名 Jagat Prakāśa と故人の名 Candra Śekhara を合成した Jagat Candra を用いるようになる。[Brinkhaus 1987, pp. 12-16]

Brinkhaus が認めた上記の事柄は、本研究の主な研究対象として扱った JPM 王のネワール語歌詞集にも、よくあてはまる。歌詞集の至るところで、失われた友に対する哀しみが切々と詠いあげられる。現代の読者にとって興味深く、しかし、いささか奇異に思われるのは、友に対する哀しみと慕情が、恋愛詩の形式を取るということである。中には「私たち二人は、両性具有 ardhānārīśvara の神シヴァの如く、一つの身体」と詠う句もあり、JPM 王の CS に対する情愛の深さを表している。

JPM 王は、ミティラー語およびサンスクリット語を用い、CS に捧げて挽歌集 Gītaṇcaka (Candraśekhara-viyoga) を著している。そこでは「月の顔、バナナの幹のようにすりりとした腿、獅子のようにスリムな腰」をした魅力的な男性の恋人に仮託して、故人への哀慕が述べられる。実は、中世インドにおいて、宮廷詩人がパトロンに対する称賛詩を恋愛詩の形式に依って作り、その中でパトロンを男性の恋人に見立てる例は、さほど珍しいことではない。しかし、JPM 王の例は、主人が臣下に対して捧げたものであり、南アジア全体を見渡しても、特異な例である。

いずれにせよ JPM 王の後期作品群の何れを取っても、癒しがたい悲痛が基層低音として流れており、喜劇『怪盗ムーラデーヴァ...』でさえ例外ではない。個人のこうしたやむにやまれぬ感情の吐露が、結果として母語ネワール語による旺盛な著述につながり、それは奇しくも、ネワール族が民族としての自覚を明確に持ち始め、それを自身の肉声 (母語) で表出する動きと重なっていた。

この他に、次のような事実が判明した。JPM 王のネワール語歌詞集に記載された五百余の歌詞群は全て、戯曲の挿入歌である。この歌詞集には「韋駄天誕生 Kumārasambhava」「ルクミニ誘拐」「ディヴォーダーサ王」「スワスタニ女神縁起」など、様々な神話伝説に基づく戯曲の挿入歌が含まれており、JPM は上記の『怪盗ムーラデーヴァ...』の他にも複数のネワール語戯曲を著していたことが明らかとなった。これらの戯曲群は残念ながら、この歌詞集に所収の歌詞群を除いては、失われてしまった。

ところで JPM 王の祖父 Jagajjyotir Malla 王 (治世 AD 1614-1637) は、カトマンドゥ盆地内で最初に、当時最先端の文化語ミティラー語を、それまで有力であったベンガル語に代わり、宮廷語・文章語として採用した。カトマンドゥ盆地内の他の二王国 (カンティプル、パタン) に先駆けて芸術振興に尽力し、自らもミティラー語で戯曲群や詩集を著した革新的な人物であった。この、祖父が始めた文化革新を孫の JPM が受け継ぎ、さらに推し進めた、という見方もできる。Jagajjyotir Malla 王のミティラー語導入は、外来の先進文化移入であるが、同時に、ネワール民族意識の発現の過程における一現象でもあり、それは孫の JPM 王のネワール語著作という形で実を結んだ、とも解釈できそうである。実際、JPM 王のネワール語歌詞には、ミティラー語の代表的詩人ヴィディヤーパティからの影響が顕著であり、この影響関係の詳細な検討は、今後の課題である。

実は、JPM 王がネワール語戯曲を著したのと同時期、カトマンドゥ盆地内の他の二王国 (カンティプル、パタン) の王達も、ネワール語での戯曲を著していたことが知られている。この二王国は、JPM の治めたバクタブルと政治面および文化面で活発な競合関係にあった。これらの戯曲写本のほとんどは、未だ研究されておらず、今後これらを研究する必要がある。これらとの比較なしには、この時期のネワール演劇文献史の中に、JPM 王の著作を正確に位置づけることはできないからである。

(2)

2013 - 2016 年に研究した、15 - 16 世紀にマツラ王朝の宮廷で著されたベンガル語戯曲群に関

して、本研究期間中に、予期せず、驚くべき事実が判明した。

中期ベンガル語で書かれた最古の文献、チャンディーダース Caṇḍīdās 作『クリシュナ讃歌』Śrīkṛṣṇakīrtan (ŚKK と略す) は、20 世紀初頭にインド西ベンガル州の辺境バンククラ県の農家の納屋で発見された一写本のみにより知られていた。しかし、報告者(北田)と Kashinath Tamot 博士の調査により、ネパール国立古文書館に、この作品の幾つかの歌詞を含む歌詞集断片が所蔵されていることが判明した。この成果は 2016 年に発表されていた。

これに加え、本研究期間中に判明したのは次のような事柄である。

マッラ王朝期に作られたベンガル語戯曲写本のうちの二つ『Kṛṣṇacaritra』および『Pārijātaḥaraṇa』の末尾には、ベンガル語・ミティラー語のクリシュナ歌詞群が覚書として書きつけられている。この中の幾つかのものが ŚKK の歌詞と同定された。この他に、カトマンドゥ市 Asha Archives 所蔵の歌詞集断片にも、ŚKK から一個の歌詞が含まれていることが判明した。

これに加えて、ネパール国立古文書館に所蔵される 78 葉ものベンガル語・ミティラー語歌詞集に ŚKK の歌詞が二つ含まれており、また、詩人チャンディーダースの名を著者として詠み込んだ 5 個の歌詞があることが分った。この写本には、この他にも、ŚKK に酷似する語彙・文体を持った歌詞が多数含まれる。

複数の戯曲写本から ŚKK の歌詞が見つかったことは、ŚKK がマッラ王朝期にネパールに伝わり、演劇上演時に歌われたことを示唆する。これまで、ŚKK が詩人チャンディーダースの真正の作品であるか、ベンガル文学研究者の間で、写本発見以来長らく議論的となっていたが、ネパールからの発見は、真正性を裏付ける証拠であり、かつ、ŚKK がベンガルを越えて流布していたことを示す。

ネパールに保存されるベンガル語戯曲『Vidyāvinoda』は、ベンガル地方に流布する物語『ヴィディヤー姫とスングラ王子』(Vidyāsundara) を翻案したものである。ベンガル語でこの物語を扱った最初の作品は、北ベンガル(ガウル王国)の宮廷詩人シュリーダラ Śrīdhara であるが、ネパールの『Vidyāvinoda』は、シュリーダラのテキストに若干の変更を加えたものであることが判明した。シュリーダラの此の同じ作品の写本は、ベンガル地方の東端チッタゴンでも見ついている。このことは、シカゴ大の研究者 Thibaut d'Hubert が唱える「北ベンガルを中心として、西のカトマンドゥから東のチッタゴンまで、さらに北のアッサムから南のオリッサまで、ベンガル語及びミティラー語をリングア・フランカとして、広大な文化交流圏が存在していた」という説の有力な証拠となりうる。

上記 と の事実は、次のようなことを示す。ネパール(カトマンドゥ盆地)に伝わるベンガル語戯曲群およびベンガル語歌詞群は、ベンガル語文学の単なる傍流ではなく、むしろ主流に属するものである。かつ、今日ベンガル本土に伝わるものよりも、より古風な段階を保存する。したがって、これらは、ベンガル語文学史を扱う上で無視することのできない極めて重要な位置にあり、今後、再評価してゆく必要があろう。

(3)

つまり、マッラ王朝期における文芸・芸能は、カトマンドゥからチッタゴンまで広がる大きな国際的文化圏を背景とし、対外的アピール性を強く意識しながら、地方文化の独自性を明確に打ち出そうとしたものであった、といえる。

(4)

マッラ王朝期の宮廷演劇は、今日のネパール国カトマンドゥ盆地各地で行われる伝統芸能に受け継がれ、今も生きた形で存続している。パタン市および盆地南端のファルピン村で毎年開催されるカルティク・ナーチ演劇祭は、マッラ王朝の宮廷演劇の形式を最も忠実な形で保存するものであり、本研究で扱ったマッラ王朝期の戯曲写本を理解する上で非常に役に立った。パタン市のカルティク・ナーチは、Siddhi Narasimha Malla 王が西暦 1697 年に始めた、とされ、もう一方のファルピンの伝統は、村の伝承者によると、さらに早い 1473 年に始まった、という。本研究期間中には、ファルピン村で行われるカルティク・ナーチを現地調査した。この村の演目には、「ルクミニー誘拐」「ウシャー姫誘拐」「貞妻サーヴィトリー」「マダーラサー誘拐」など、マッラ王朝期の宮廷で好まれたのと同じ題目が含まれ、上の(2) - で述べた「ヴィディヤー姫とスングラ王子」も何年かに一度、上演されている。しかし、これを伝承してきたのはネワール社会周縁部に位置づけられるバラミ族の人々だ、という事実は謎めいている。

いずれにせよ、今日のネパール国の伝統文化はマッラ王朝期に形作られたものであり、本研究により、その形成の様子と、その性質を、一端ではあるが明らかにできたと考える。

参考文献

Horst Brinkhaus: *Jagatprakāśamallas Mūladevaśaśidevavyākhyānanāṭaka. Das älteste bekannte vollständig überlieferte Newari-Drama. Textausgabe, Übersetzung und Erläuterungen.* Franz Steiner Verlag, Stuttgart 1987.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 Vol. 13, No. 15
2. 論文標題 Premer Cor: Sridhara biracita Bidya-sundar, Cattogram theke Kathmandu paryanta	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bhabanagar Vol. 13, No.15 (June 21). Dhaka: Bhabanagara Foundation	6. 最初と最後の頁 1571-1586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北田信	4. 巻 16
2. 論文標題 ネパールの演劇写本、ジャガトブラカーシャ・マツラ王のネワール語歌集 (4) 韋駄天誕生	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『南アジア古典学』九州大学インド哲学研究室	6. 最初と最後の頁 355-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 Vol. 14, No. 16
2. 論文標題 Caryapader aitihiyik parampara: Nepaler caca-gan 'dombini'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bhabanagar Vol. 14, No. 16 (Dec. 2021). Dhaka: Bhabanagara Foundation	6. 最初と最後の頁 1697-1704
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北田信	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 恋盗人の歌 初期のベンガル語文学 カトマンドゥウからチッタゴンまで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 2021年度極東証券寄附講座 文献学の世界 テキストとノの空間性	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北田信	4. 巻 15
2. 論文標題 ネパールの演劇写本 ジャガトブラカーシャ・マッラ王のネワール語歌集(3)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南アジア古典学(九州大学)	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北田信	4. 巻 15
2. 論文標題 ネパールの伝統芸能に関する民族学的考察 カトマンドゥ盆地山村のカルティク・ナーチ演劇祭	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南アジア古典学(九州大学)	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北田信	4. 巻 14
2. 論文標題 ジャガトブラカーシャ・マッラ王のネワール語歌集(2)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 南アジア古典学	6. 最初と最後の頁 203-223
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 Baru Candidas' parallel in the Asa Archives of Kathmandu Report on the research of dramatic manuscripts in Nepal of the Malla dynasty	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/73440)	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 Jagatprakasa Malla 's songs in Newar language : Report on the study of the court theater of the Malla dynasty	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/73756)	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 Krsnacaritra : A Bengali drama from the 16th century Nepal : A Romanized text based on the manuscript : Report on the research of dramatic manuscripts written in Nepal of the Malla dynasty.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/71983)	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 Bengali drama from Nepal. Vidyavinoda. A romanized text based on the manuscript. Report on the research of dramatic manuscripts written in Nepal of the Malla dynasty.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/71692)	6. 最初と最後の頁 1-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 The fourth Caryapada still being chanted in Kathmandu today : Caca song, Trihanda	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/73441)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 The Vajragiti of the Hevajratantra still sung in Kathmandu	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/73686)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 Gokudahana	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/73686)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 Caca song, Savakranta	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/73729)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 -
2. 論文標題 Caca song, Namo hum	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 阪大ディレクトリOUKA (http://hdl.handle.net/11094/73731)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北田信	4. 巻 13
2. 論文標題 ネパールの演劇写本 ジャガトブラカーシャ・マッラ王のネワール語歌集	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 南アジア古典学	6. 最初と最後の頁 345-357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 Vol. 9, No. 10
2. 論文標題 Nepaler 'Caca' gan o pracin banlar Caryapad (in Bengali language)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Bhabanagar. International Journal of Bengali Studies	6. 最初と最後の頁 1067-1075
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 Vol. 15, No. 17
2. 論文標題 Baru Candias o Bipra Candidas: Kath'mandute samraksita pandulipite Candidas bhanita prasanga	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bhabanagar	6. 最初と最後の頁 1823-1838
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北田信	4. 巻 17
2. 論文標題 ネパールの演劇写本 ジャガトブラカーシャ・マッラ王のネワール語歌集(5) ルクミニー誘拐	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南アジア古典学	6. 最初と最後の頁 179-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Kitada	4. 巻 117 (4-5)
2. 論文標題 On the 'New' Caryapada	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Orientalistische Literaturzeitung	6. 最初と最後の頁 315-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 北田信
2. 発表標題 恋盗人の歌 初めてのベンガル語文学 カトマンドゥウからチッタゴンまで
3. 学会等名 南アジア学会第34回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北田信
2. 発表標題 ネパールの "村神楽" : カトマンドゥウ盆地山村のカルティク・ナーチ演劇祭
3. 学会等名 日本南アジア学会第32回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Baru Candidas' parallels in the dramatic manuscripts from Kathmandu
3. 学会等名 DUI BANGLA: Bangladesh and West Bengal from Environmental Issues to Cultural Perspectives. Chicago Univ. (Paris Center) & INALCO, London.. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 The Caca, or Esoteric Buddhist Hymns: Text and Practice in Nepal.
3. 学会等名 Seminar: Music Histories of the Kathmandu Valley: Performance and the Archive. SOAS, London. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Kathmandu-te Caryapad, Baru Candidaser Srikrnakirtan, Bamla Natak.
3. 学会等名 Bengali Section, Jadavpur University, Kolkata (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Nava Caryapada, Sri Krsna Kirtan and Bengali dramas in Kathmandu
3. 学会等名 Negotiations between the 'Local' and the 'Global' in 'Cultural Bengal': Community, Society and Politics. Acharya Brojendra Nath Seal College (Cooch Behar, West Bengal, India) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北田信
2. 発表標題 絵画と旋律 音楽的細密画に描かれる鳥獣
3. 学会等名 南アジア学会30周年記念シンポジウム (於京都大学) 「感覚からみるインド世界 動物・生業・芸能」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Nepalesische Tradition des Tanztheaters: Der Kartik Nac des Pharping
3. 学会等名 Mitteldeutscher Suedasientag, Martin Luther Universitaet, Halle, Germany (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Les arts folkloriques Bengalis
3. 学会等名 フランス国立東洋言語文化研究院 (INALCO, Insitut nationale des langues et civilisations orientales) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Musique, poesie et peinture: Les peintures de Raga-mala
3. 学会等名 フランス国立東洋言語文化研究院 (INALCO, Insitut nationale des langues et civilisations orientales) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Nepalese Traditional Theater
3. 学会等名 フランス国立東洋言語文化研究院 (INALCO, Insitut nationale des langues et civilisations orientales) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Kitada
2. 発表標題 Jagatprakasa Malla 's grief to his bosom friend: Affection expressed in Maithili and Newari
3. 学会等名 Panel "Critical Contours of Maithili Studies" in: The 50th Annual Conference on South Asia, Univ. of Wisconsin-Madison (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Hans Harder, Carmen Brandt, Makoto Kitada & others	4. 発行年 2020年
2. 出版社 CrossAsia-eBooks (Heidelberg, Berlin)	5. 総ページ数 517
3. 書名 Wege durchs Labyrinth Festschrift zu Ehren von Rahul Peter Das (担当分pp. 215-253)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Caryapader aitihiyik parampara (http://hdl.handle.net/11094/87464) Premer cor: Sridhar biracita vidyasundar (https://researchmap.jp/181017/published_papers/35129062) Second findings of Baru Candidas in Nepal (http://hdl.handle.net/11094/79124) Drama Vidyavinoda by Sridhara found in Nepal (http://hdl.handle.net/11094/78806) Another version of Sridhara 's Vidyasundara (http://hdl.handle.net/11094/79019) Baru Candidas verses found in Nepal (http://hdl.handle.net/11094/77726) Jagatprasa Malla 's songs in Newar language (http://hdl.handle.net/11094/73756) Baru Candidas' parallel in the Asa Archives (http://hdl.handle.net/11094/73440) Krsnacaritra. A Bengali drama from Nepal (http://hdl.handle.net/11094/71983) Bengali drama from Nepal : Usaharana-nataka (http://hdl.handle.net/11094/71130) Parijataharana, a Bengali drama from Nepal (http://hdl.handle.net/11094/71131) Jalandharasuravadha, a Bengali drama from Nepal (http://hdl.handle.net/11094/71179) Srikrnakirtan and its parallels from Nepal (http://hdl.handle.net/11094/71179)</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------